

言語文化「唐詩の世界」 の実践報告

発表者・起案者

佐々木千紘（旭川藤星高等学校）

大橋賢一（北海道教育大学旭川校）

【発表概要】

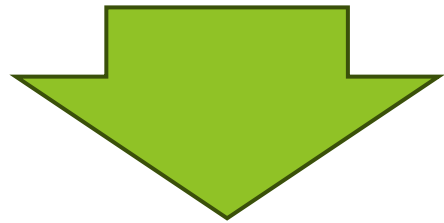
- 1 実践の背景
- 2 教材について
- 3 実践したクラスの特徴
- 4 授業展開
- 5 翻案の実際
- 6 成果と課題・今後の展望

1. 実践の背景

- ▶ 漢詩の学習に至るまでの流れ
 - ▶ 訓読の基礎（1学期・7月頃）
 - ▶ 故事成語（1学期・夏休み明け）
 - ▶ 漢詩の学習（2学期・11月）

1. 実践の背景

- ▶ 「国語総合」から「言語文化」に代わり、漢文（漢詩）を取り扱える機会が減少。
→ 近体詩の押韻・形式を教えることが中心に。



- ▶ その詩の良さや魅力がどこにあるのかを生徒自身が発見できる力を身につけさせたい。

2. 教材について

- ▶ 高校1年生 標準言語文化（第一学習社）
 - ▶ 「春暁」（五言絶句）
 - ▶ 「送元二使安西」（七言絶句）
 - ▶ 「春望」（五言律詩）
 - ▶ 「静夜思」（五言絶句）
 - ※ 「香炉峰下新卜山居草堂初成偶題東壁」（七言律詩）は紹介のみ

2. 教材について

▶ どう扱うか

▶ 翻案詩の作成

▶ 「春暁」の翻案（①井伏鱒二・
②土岐善麿・③学習課題集）を比較
→ 「静夜思」の翻案を作成させる

3. 実践したクラスの特徴

▶ 実践したクラス

→ 1年3組、4組（男：女 = 1：6）

▶ 学力層は中～下

▶ 3組の方が比較的理解力があるが、話し合い活動は4組の方が盛んである。

4. 授業の展開

▶ 全4時間構成

▶ 1次. 漢詩の決まり

▶ 2次. 三首の内容、漢詩のリズムの学習

▶ 3次. 「春暁」の3種類の翻案を比較学習

▶ 4次. 個人での「静夜思」翻案作成

※1-3、1-4で実践。うち、1-4は3次を2コマ使用。

表現：詩の形式を確認しよう

学習ワークシート①

①春

孟浩然

詩の形式の特徴をまとめよう

春

暁

★字数

処

啼鳥

「」と「」は（ ）言

夜

雨声

「」は（ ）言

花

多少

「」と「」は（ ）句（ ）

②送

表現：詩の内容を確認しよう

学習ワークシート②

渭

春暁

客

春（ ）が来たのも知らずにねむっていたが、

勸

あちらこちらに（ ）のさえずる声が聞こえる。

西

昨夜は（ ）の音がしていたが、

③春

庭の（ ）はどれくらい散ったことだろうか、

どれほど散ったかわからない。

元二が安西へ使者として行くのを見送る

渭城に朝方降った雨が、細かな土埃をしつとりと湿らせ、
旅館の（ ）に生える（ ）の色は青々と、鮮やかだ
さあ君、もう一杯この酒を飲み干したまえ、
西の（ ）を出たら、（ ）もないだろうから。

春の眺め

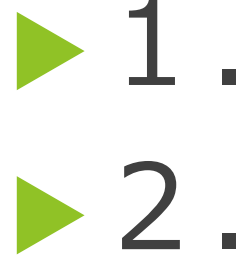
（ ）長安は破壊されたが、（ ）は以前と変わらずに
（ ）には春が来て、（ ）は、深々と生い茂っている。
このような時勢に心を痛め、咲く花を見ても（ ）がこぼ
家族との別れを悲しみ、鳥のさえずりにも私の心は（ ）
う。

戦いの（ ）は三月になっても続いており、

（ ）からの手紙は巨万の富に相当する「ほど貴重だ」。
たまらなくなつて（ ）頭を搔けば、抜け落ちて薄くな
もはや全く冠をとめる（ ）も挿せなくなりそうで

1. 漢詩の決まり

2. 三首の内容、漢詩のリズムの学習



▶ 3. 3種類の翻案を比較学習

春暁

ハルノネザメノウツツデ聞ケバ
トリノナクネデ目ガサメマシタ
ヨルノアラシニ雨マジリ
散ツタ木ノ花イカホドバカリ

井伏鱒二『厄除け詩集』

春あけぼの

春あけぼの うすねむり
まくらにかよう 鳥の声
風まじりなる 夜べの雨
花ちりけんか 庭もせに

土岐善麿 『鶯の卵』

春のあかつき

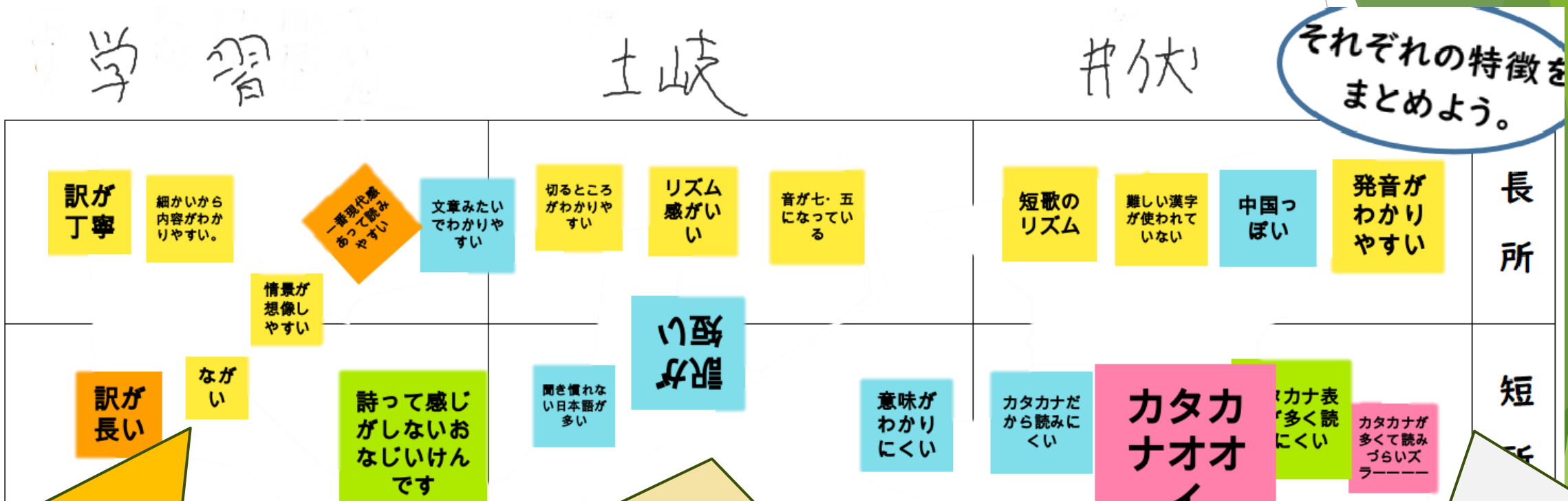
春、夜明けが来たのも知らずに眠っていたが、鳥の声に目を覚ました。昨夜は風雨が強かったが、庭の花はどれほど散ったことか、どれほど散ったかわからない。

『学習課題集』要点の整理より

それぞれの特徴
まとめよう。

▶ 3. 3種類の翻案を比較学習

ジヤムボードを使用



それぞれの特徴をまとめよう。

長所：訳が丁寧
わかりやすい
短所：訳が長い
詩って感じがしない

長所：リズム感がいい
切れ目がわかりやすい
短所：聞き慣れない日本語
意味が分かりにくい

長所：中国語っぽい
発音がわかりやすい
短所：カタカナ多い
読みにくい

▶ 4. 個人での「静夜思」 翻案作成

参考にする翻案を選択

一. どの方法を使う？↑

井伏鱒二 ・ 土岐善麿 ・ 『学習課題集』↑

二. 「静夜思」の訳を考えてみよう。↑

翻案作成

工夫したところ
翻訳の時に気を付けたこと

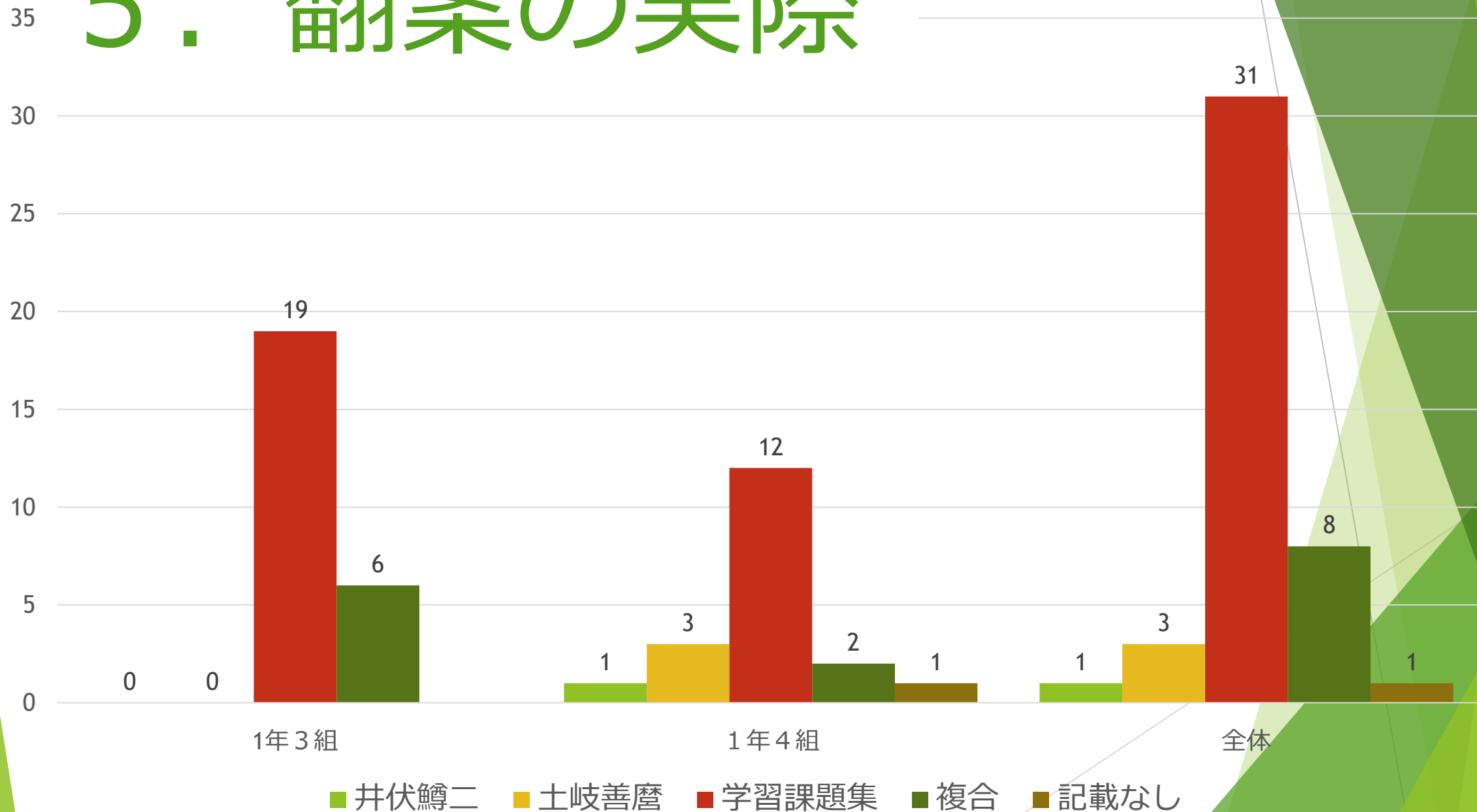
一. 周りの人と見比べてみよう。↑

・ よいと思った表現・訳など ↑

表現をお互いに批評
しあおう

※班内で一番上手にできていた人()

5. 翻案の実際



5 . ① 学習課題集

寝台の前で月の光をみている
と地面に降りた霜のように見
えました。

顔を上げて山の上にある月を
ながめているとうなだれては
故郷のあれこれを思い出して
しまいました。

(生徒作品)

秋の夜、寝台の前を明るく
照らす月光は、まるで地上
に降りた霜と見まがうほど
であった。頭を上げて山の
端を見れば、故郷のことが
しのばれてならない。

(オリジナル)

5. ②土岐善麿

寝台前で月光ながめ
静かにきらめく霜が浮かぶ
顔を挙げると山月うつり
頭を伏せて故郷を思う

(生徒作品)

床にさす 月かげ
うたがいぬ 霜かと
仰ぎては 山の月を見
うなだれては おもひふるゑと

(オリジナル)

5 . ③井伏鱒二

ネマノウチカラフト気がツケバ
霜カトオモウイイ月アカリ
ノキバノ月ヲミルニツケ
ザイシヨノコトガ氣ニカカル

(オリジナル)

マダ寝又ウチカラフト気がツクト
霜ノヨウニモ感ジルイイ月アカリ
野ノ端ニアル月ヲミツメ
故郷ノコトヲ思イダス

(生徒作品)

5. ④複合

寢床にさしこむ
月の光を見ると
地面に降りた
霜のようだ
顔をあげて
山の月を見つめれば
気づくと故郷を思いだす

(生徒作品)

月の光に手をかざしてみる。
寢台の前で月の光をみる。
まるで地面に降りた霜のよう。
あげた顔が山の上の月を見つけた。
垂れた頭とともに故郷を思う。

(生徒作品)

6. 成果と課題

成果

- ▶ 翻訳を通して、詩の魅力の一端に触れることができた。
- ▶ 僅かではあるが、井伏鱒二訳や土岐善麿訳を参考に翻訳に取り組む生徒がいた。

課題

- ▶ 原詩の巧みさを日本語に落とし込むよりわかりやすさを優先した生徒が多かった。
- ▶ 中国語の韻文を日本語の韻文で作成させることの難しさ。

6. 今後の展望

- ▶ 漢文の学習とは別に、韻文（短歌・詩）を書く機会を設け、韻文への抵抗感をなくしたい。
- ▶ 語彙の強化と表現の幅を広げるために、井伏鱒二か土岐善麿の訳を選んで翻案を作る機会を設けたい。
- ▶ 本研究の一部は、北海道教育大学学長戦略経費（臨床的研究プロジェクト「国語教育におけるICT、主にデジタル教科書を活用した授業モデルの構築」）の助成を受けたものである。